

せとのまちのミライを語る対面ワークショップを開催しました

★開催概要

次期計画の策定過程において、多様な市民参画の機会を設け、広く市民意見を収集するため、対面ワークショップを行いました。ワークショップでは、市民の皆さんが考える将来にわたって幸せになるミライの瀬戸のアイデアを出し合いました。

- 開催日時：令和7年8月2日(土)10:00~12:00
- 会場：パルティせと 4階 マルチメディアルーム
- 参加者数：10名



★当日のプログラム

テーマ：私たちが幸せになるミライの瀬戸とは？

- 開会・あいさつ：対面ワークショップの趣旨を説明しました
- ガイダンス：プログラム・本日の目標・ゴールの説明をしました
- アイスブレイク：自己紹介をし、グループにどんな人がいるか確認しました
- 個人ワーク：「私が思う瀬戸の暮らしの素敵なところ・お気に入りなところ」を考えました
- グループワーク①：個人ワークの結果を、グループで共有しました
- グループワーク②：個人ワーク・グループワークを踏まえ、「私たちが幸せになるミライの新しい瀬戸の暮らし」を考えました
- 発表・投票：グループワークの内容を発表し、共感できたものと、面白い!と思ったものに投票しました
- 閉会

★ワークショップの成果

グループワークで考えた「私たちが幸せになるミライの新しい瀬戸の暮らし」のいくつかを紹介します。



旧産総研を活用したスタートアップのまち
陶磁器の流れからの化学工業・高温技術等の深さを活かして、近隣大学やステーションAIなどと連携して、若手の人流を呼び込み、まちの活性化、更に国際化を図っていきたい。



市内の地域性(旧村)を活かした「変」なまち・文化がいきているまち

ただのベッドタウンにはならないでほしい。それぞれの地域について住民が語れるようになり、日常的に文化が活きているまちになると良い。



子育てするならせと! 働くならせと!
自然が豊かでありながら、化学系の企業も多く立地しており、自然豊かな環境で子ども時代を過ごし、瀬戸の企業に就職して、生涯瀬戸で暮らす人が増え、まちを盛り上げていきたい。



三世代が触れ合えるまち
イベントや地域活動の際に、特定の年代の人だけが集まるのではなく、いろいろな世代の人が参加し、交流できるような機会を作ってまちおこしができると良い。

陶都が育てる若手クリエイターをたくさん輩出するまち

瀬戸物のブランドがあるので、それを継承する若手クリエイターをたくさん輩出するまちであってほしい。



★感想

- 多世代で話ができ良かった。このような交流できる機会がもっとあると良い。
- 初めて知ることあつて、ますます瀬戸を知りたくなり、愛着がわきました。
- 瀬戸の個性を大切に、市民が地域を語れるようになると良いと思いました。

